

22. ^{57}Co -プレオマイシンシンチグラムの悪性腫瘍特異性の問題点について

亀井 泉 土田 勇
竹村 恵史 平出美知子
後藤円治郎 山之内国男
(中部労災病院・内)
永田 隆良 西垣 文政
(同・アイトープ)

近年, 種々の腫瘍親和性物質が臨床応用されてきている。 ^{57}Co -BLM は物理的半減期に問題はあるが, 速やかな尿中排泄, 高い腫瘍/血液比が得られ, 又 false positive の少ないことが特徴的といわれている。我々は過去2年間に頭頸部腫瘍, 肺癌の鑑別に27症例に ^{57}Co -BLM によるシンチフォトを試みた。最近炎症病巣への著明な集積を認めた2例を経験したので報告する。

1) 原発性肺癌の15例中12例(80%)に(+)以上の集積がみられた。(集積度は極めて明らかな集積を認めたもの(++)、明らかな集積(+), 疑陽性(±)とした)

2) 肺癌以外の悪性腫瘍では7例中6例に腫瘍部に(+)以上の集積をみた。

3) 悪性腫瘍の合併が疑われた陳旧性肺結核, 肺炎の患者及び肺癌の合併を疑わせる肺結核患者のシンチフォトにて病巣部に(++)の集積像を得た。前者は剖検により確定診断を, 後者は臨床経過より共に肺癌の合併は否定された。その後2例の新鮮な肺結核患者に ^{57}Co -BLM によるシンチフォトを行ったが2例共陽性に描出された。

<考案並びに結論>

従来, ^{57}Co -BLM は腫瘍特異性に富み, false positive の少ない物質として悪性腫瘍との鑑別の補助的診断に有用であることが報告されてきた。今回吾々は肺結核3例, 肺炎1例に ^{57}Co -BLM の著明な集積を認めたことより, 他の腫瘍親和性物質と同様, 集積像の読影には充分留意する必要があると考える。

23. ヘモクロマトーシスにおけるフェロカイネティクスの特徴

斉藤 宏
(名大・放)

フェロカイネティクスはヘモクロマトーシスの診断上極めて重要な情報を提供するが, 単に, フェロカイネティクスを行えばいいという性質のものではない。

鉄の吸収: 鉄吸収の異常亢進によりヘモクロマトーシスの鉄過剰がおきるので, 鉄吸収テストは重要である。しかし鉄吸収率は, ヘモクロマトーシスで常に亢進しているわけではない。瀉血又はDFOによる鉄除去後正常化した状態の鉄吸収率測定を必要とする。ヘモジデロシスでは瀉血鉄除去後も吸収亢進が認められなかったが, ヘモクロマトーシスでは全例鉄欠乏性貧血相当の吸収亢進を認めた。

鉄の交替: ^{59}Fe の消失率は鉄が多い割には速やかである。 ^{59}Fe の分布は再生不良性貧血様である。しかし, 鉄を除去したのち, 貯蔵鉄の交替が著明に亢進する。除鉄前にも貯蔵鉄交替の亢進を認めることはあるが少ない。血漿鉄交替率も常に増加しているとは限らない。

このように鉄代謝成績の解析は慎重を要する。ヘモクロマトーシスの診断上最も重要なことはアナムネーゼである。フェロカイネティクスも重要な情報を提供するが解析には慎重を要する。瀉血は判断を容易にする。病理所見は余り役立たない。